

実践事例2 習得した知識を活用させ、よりよい社会を考え、表現させる学習問題づくり【単元の後半】

単元の指導計画

単元名

第3学年 「はたらく人とわたしたちのくらしー店ではたらく人ー」（全14時間）

[東京書籍 3・4年上]

単元の目標

地域の販売の仕事について、スーパーマーケットで働く人々の様子を見学したり、聞き取り調査をしたりして調べ、地域の販売に関する仕事が自分たちの生活を支えていることや販売されている商品を通して他地域と関わっていることが分かり、販売の仕事をする人が消費者の願いに応じた工夫や努力をしていることを考えるようにする。

学習指導要領の内容（2）

地域の人々の生産や販売について、「ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。」、「イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」を見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにすること

単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
・ 地域の人々の販売の仕事の様子に関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域の生産や販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。 ・ 地域の販売の仕事と自分たちの生活との関わりから、今よりもっと販売の促進につながる提案について考えようとしている。	・ 地域の人々の販売の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ・ 地域の人々の販売の工夫や努力を、消費者の願いや目的、自分たちの生活と関連付けて考え適切に表現している。	・ 観点に基づいて見学したり資料を活用したりして、地域の人々の販売の仕事の様子について必要な情報を集め、読み取っている。 ・ 働く人の様子や販売の工夫について調べたことを見学メモやワークシートなどにまとめている。	・ 地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。 ・ 地域の人々の販売に見られる仕事の特色や国内の他地域との関わりを理解している。

単元の構造（全14時間）

（課外） 家庭での買い物調べ

どこで買い物をしているか、それはなぜかをインタビューする。

（第1時） ふだん、わたしたちはどんなお店に行っているのか調べよう。

お店の中でもスーパーマーケットに行くことが一番多いことを知り、疑問をもつ。

（学習問題Ⅰ） なぜスーパーマーケットにたくさんの人が買い物に行くのでしょうか。
どことなくふうがあるのでしょうか。

（第2時） スーパーマーケットではたらく人について、どのようにべん強していくかを考え、学習計画を立てよう。

実際に見学して調べる計画を立てる。

本やインターネット使って自分で調べたりする計画を立てる。

（第3時） スーパーマーケットの見学で見てくることを考えよう。

学習問題Ⅰの答えを予想し、予想を基に調べる視点を決める。

調べる視点（見付きたい工夫）「安さ」「品揃え」「新鮮さ」「便利さ」「店の外」

（第4・5時） スーパーマーケットを見学しよう。【見学】

予想を確かめたり、新しい工夫を見付けたりする。

（第6時） 見学して分かったくふうをまとめよう。

スーパーマーケットはお客さんのことを考えて工夫をしていることを考え、理解する。

（第7時） 見学では分からなかったくふうについて、インターネットを使って調べよう。

見学では見えなかったところにもお客さんのことを考えた工夫があることを知る。

（第8時） 品物はどこから運ばれてくるのかを調べよう。

スーパーマーケットは、品物を通じて全国各地や外国ともつながっていることを知る。

（第9時） スーパーマーケットは、品物を売ることのほかにもどんなことをしているのか調べよう。

スーパーマーケットは、地域のため、人のための活動もしていることを知る。

（第10時） まとめたことから、学習問題Ⅰの答えを考えよう。

販売の仕事をする人が消費者の願いに応じた工夫や努力をしていることを考える。

（学習問題Ⅱ）「調べたスーパーマーケット」にもっとお客さんが来るためには、「安さ」と「新鮮さ」のどちらを大切にしてい取り組んだ方がいいか考えよう。

（課外） お家の人に「もっと安い」「もっと新せん」のどちらが良いのかをインタビューしよう。

身近な人の意見を聞いて考える。

（第11時） 学習問題Ⅱについて、自分の考えを決めるために、しりょうを使って調べよう。

「安さ」「新鮮さ」について、良い点と問題点を調べ考える。

（第12時） とうろん会に向けて、自分の考えを決めよう。

討論会に向けた自分の考えをまとめる。

（第13時） お家の人を交えて、とうろん会をしよう。

友達の考えや討論会の中での議論を基に、自分の考えやその理由を見直す。

（第14時） とうろん会を終えて、自分の考えをまとめよう。

学習問題Ⅱについての自分の考えを、これまで学習したことを使ってまとめる。

地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活をさせていることが分かる。

地域の人々の販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとの関わりが分かる。

授業改善の視点（○）と取り入れた具体的な手立て

○複数の情報を関連付けて考えさせる。

「つかむ」過程

- ① 児童の「買い物調べ」の結果から分かった「普段、わたしたちはスーパーマーケットで買い物をすることが多い」ことについて、その理由を予想させる。その際、よく行く店までの距離や近くの店に行く理由、遠くの店に行く理由などの情報を関連付けて考えることができるように、店の位置を地図に表したり、遠近による違いが分かるように理由を分けて表にしたりする。

「調べる」過程

- ① 見学して分かった工夫をまとめる際には、事実の羅列で終わらないようにするために、「なんのための工夫なのか」を問いかけ、ワークシートに記述させることで、調べる視点を基に客の願いと見学して分かった工夫を結び付け、関連付けたまとめになるようにさせる。
- ② 学習問題Ⅰに「なぜスーパーマーケットによく行くのか」という理由への問いを入れ、毎時間の末に学習問題Ⅰへ立ち戻らせ、「なぜ〇〇なのだろう」と問いかけることで、前時までの学習で分かったことや本時に分かったことを関連付けて表現できるようにする。
- ③ 学習問題Ⅰをまとめる際には、「お店の人がする工夫や努力」と「お客さんの願い」の両方を関連付けて説明できるように、「お店」と「お客さん」をキーワードにして説明させる。

「考え・まとめる」過程

- ① 学習問題Ⅱについて、自分の考えをもたせ、その理由を学習問題Ⅱをつくったとき、討論するための調べ活動が終わったとき、討論後と段階的に3回表現させる。その際に、理由の書き方について、分かったこと（事実）とそれをどう思うか（理由付け）を書くようにさせることで、事実の羅列ではなく理由付けによる関連付けた表現ができるように指導していく。

○考えたことを適切に表現させる

「調べる」過程

- ① 見学のまとめをさせる際に、調べさせた工夫について「なぜ、このような工夫をしているのだろう」と問いかけることで「お客さんが来やすい」や「お客さんが見付けやすい」など客（消費者）の存在に気付かせ、「お客さん」をキーワードにしてまとめを表現させる。
- ② ホームページで調べて分かったことについても同様に「お客さん」をキーワードにしてまとめを表現させる。
- ③ 産地調べの際は、全国各地から品物が集まってきていることが分かったところで、「これは店のどんな工夫になるのか」を問いかけ、「品揃えの工夫」や「安さの工夫」をキーワードにして表現させる。
- ④ スーパーマーケットが品物を売ることの他にしている工夫を調べる際には、消費者と販売者との関係が分かるように「地域」をキーワードにして表現させる。

※①から④のように、調べる→調べて分かったことをまとめる→「なぜ」や「どういうことか」などを問う→児童の返答に出てきた言葉をキーワードにして表現させるという一連の学習活動を繰り返して行うことで、学習問題Ⅰの答えを追究させる。

「考え・まとめる」過程

- ① 学習問題Ⅱに対する自分の考えを発言し、表現が適切かどうかを吟味できるように、討論型の学習を取り入れ、友達や保護者、お店の人などに対する相手意識をもたせて表現させる。